

学校通信

強い網

2014年10月号

新版 第69号

編集

 駿台甲府高等学校
 駿台甲府中学校
 駿台甲府小学校

 小学校 校長 坂本 宏行
 全国学力調査

全国学力調査は一九六〇年代に「全国中学校一斉学力調査」としてスタートしましたが、学校間や地域の競争が激化したことにより、全員調査は中止になりました。しかし、近年、学力低下が問題視され、文部科学省が二〇〇七年、小学校も加え、四十二年ぶりに全員調査を復活させました。

基本的にはすべての小中学校が参加する予定でしたが、「競争原理の導入になる」という理由などで全小中学校の参加は見送りになりました。また、私立学校の参加も六割程度に、東京都内の私立学校に至っては二割程度の参加に留まりました。

そんな中で二〇一二年から国語と理科と算数・数学の三科目（小学校では国語と算数の二科目）で、それぞれ知識力を問う問題（A）と知識活用力を問う問題（B）の二種類に分け実施され、同時に、児童・生徒の学習・生活環境のアンケート調査も行われています。

結果の公表については、様々な立場からいろいろ議論されており、現段階では文部科学省は、都道府県単位での公表に留め、学校ごとの成績公表は市区町村教育委員会に委ねています。

自治体・学校単位での公表についても、学校数の少ない自治体や小規模校の場合は、

自治体の成績が学校の成績、さらに学校の成績が個人の成績となる問題も出て来ている。

調査結果の公表については、二〇〇九年に実施した意見調査では、市区の教育委員会の八六・七%が公表すべきでないと回答し、一方、保護者は六七・三%が「学校選択の基本情報」などの理由で公表すべきと意識の乖離がみられました。

山梨県では、昨年度の結果の公表や説明を保護者や地域に行った学校が中学校六一・八%、小学校七四・六%にとどまり、全国平均を下回っています。県教育委員会は「公表方法を工夫し、学校や地域全体で結果を活用してほしい」と公表を促しています。

テストがエスカレートすると成績の低い子が学校を休んだり、受験したが採点から無断で外すなどの問題が発覚しました。テスト前にテスト対策が行われ、テストに出題されない内容がおろそかになるのではないか、という指摘もあります。また、テスト受験が四月にもかかわらず結果発表は五月後の九月であり、当該学年での指導方法の改善に十分に活かせられないのが現状です。

本校は、二〇〇七年、駿小一期生が六年生の年に指名を受け受験し、その後は見送っていました。山梨県教育委員会は八月下旬に山梨県と全国の平均正答率を発表

しました。国語A七〇・一（全国七二・九）、国語B五五・〇（全国五五・五）、算数A七七・〇（全国七八・一）、算数B五七・六（全国五八・二）とすべての試験分野で全国平均を下回りました。本校は、すべての試験で全国平均を上回り、特に知識問題の国語A・算数Aより知識活用問題の国語B・算数Bの方が全国平均からの上回りが大きく、本校が目指している学習指導の成果が表れています。

この調査の本来の目的は、テスト結果から、児童・生徒の学力状況を把握・分析し、今後の指導方法の改善・向上を図ることです。学校間の序列化や過度な競争ではなく、お互いに情報を共有し、これからの指導方法に役立ていくべきであると考えています。

学びのイノベーション

今年の五月に学校・教育関係者向け教育ITソリューションEXPOが東京ビッグサイトで開催され、参加してきました。

本校でも、既に電子黒板やデジタル教科書を導入し、昨年からタブレット端末導入に向けてのプロジェクトチームを立ち上げ、試験的導入を計画していたので、興味津々でした。「新たなテクノロジーを教育に活用することで、未来の学びはどのように変わるのか」をテーマに各社の最新テクノロジーが一堂に集結。学校のICT化の進捗に伴い、たくさんのコンテンツや教材が提案されています。

「教材・教育コンテンツ」では、新しい学力の向上を支援し、タブレットを使った朝学習向けや理科・体育教材、電子黒板とタブレット端末を連携する「授業支援システム」などを活用した模擬授業、プレゼンテーションや事例発表なども提案され、参

考になりました。

今回の特徴のひとつは、教科書出版社二社が、デジタル教科書などを使い、国語・算数・理科・社会・家庭科・音楽などを一コマ三〇分の模擬授業で紹介したこと、同時に教育委員会や大学教授の特別講演も行われたことです。印刷物にタッチすることで音声が発する音声ペン、ページを開くと音声が発する本など特別支援教育に活用できるツールには驚かされました。

そして、このITソリューションの最大の目的は、東京都の小学校校長による『タブレットPCと電子黒板の活用で子どもと教師が積極的に！』と長野県の養護学校の先生による『子どもたちの主体的な活動をICTでサポート』という専門セミナーに参加することでした。

タブレット端末の導入で「正しいひらがなが書けるようになった」「コミュニケーションが深まった」などの具体的な報告もあり、大変参考になりました。

一方的な授業展開ではなく、多彩なアプリケーションと電子黒板を介し、子どもたちの豊かな創造性や思考力を活かし、積極的に発言する授業に変えていくこと。また、協働学習が容易になり、子どもたちの意欲やコミュニケーション力や学習効果の向上が見込めることなど、本校が目指していることと合致し自信を持ちました。

ICT教育を進めることにより、我々教師は子どもたちの学びや気づきを「共に・促進・援助」する意識を持ち、インタラクティブ（双方向）性を大切にしていかねばなりません。これにより本校が目指している、様々な体験から、単に問題が「解ける」ではなく、本質が「わかる・理解できる」授業を展開できると確信しています。

高校より 塩部人工芝グラウンド完成

副校長 八田政久

6月から着工した塩部校舎グラウンドの人工芝化工事が9月19日に完成・引き渡されました。工事期間中は授業や部活動において、多くの生徒に不都合をかけた

ました。工事は旧来のグラウンドを数十センチ掘り起し、排水用の配管工事を行ない、撥水性アスファルトと40ミリ人工芝を敷き詰めました。その上に、砂とゴムチップが大量に撒いてあり、体育の授業で使用しやすい硬さになっています。テニスコートは、さらに短い人工芝を敷いた後、砂を敷き詰めています。



10月11日にはこけら落としとして、ハンドボール日本代表の宮崎大輔選手と本校出身の日本リーグ選手を招待し、記念式典および交流試合を行いました。

150名を超す関係者や生徒・保護者が集まり、施工業者への感謝状贈呈に始まり、宮崎選手への質問コーナーと高校男女・中学男子ハンドボール部とのミニゲーム・写真撮影など盛大なセレモニーとなりました。ご出席いただいた関係者の皆様、この場をお借りしまして御礼申し上げます。

使用開始から数週間たちますが、生徒たちの評判は上々です。今後も使用方法を守って、この素晴らしい環境に感謝して大いに活用していきたいと存じます。

1学年進路講演会

1学年主任 嶋津由希

9月27日(土)、2学年に続いて保護者対象の進路講演会が行われました。講師には豊田基行・駿台予備学校西日本教務本部長にお越しいただきました。受験生とはどういふものなのか、受験生にはどう接すればよいのか、といった保護者の方々に直接関係する事柄から、大学入試の概要や模擬試験の受け方、志望校に受かる生徒と受からない生徒、授業中にやってはいけないチェックポイント、家庭学習の習慣づけとその内容は多岐に渡りました。また各大学のセンター試験合格者平均点などのデータが示されたり、ユーモアを交えたご自身の体験談もありました。1年生はいよいよ文理選択の時期が迫ってきました。生徒たちには自分の将来を真剣に考え、それぞれが希望する進路に進んでほしいと思います。次回の進路講演会は2月14日(土)の予定です。

2学年進路講演会

2学年主任 羽田昌樹

去る9月27日(土)駿台予備学校津田沼校より時田珠里校長をお招きして、今年度二回目となる保護者対象進路講演会を実施しました。高2の2学期は大学受験の入口ということもあり、入試制度の具体的な説明や受験に向けた心構えなど、大学入試をより意識した内容となっていました。大学入試の制度や大学志望状況というのは、その年度によって大きく変化します。つまり、過去の経験やデータがそのまま当てはまらないということです。昨年度、受験指導をしていた教員も今回の講演の中で、この一年間での変化に驚かされていました。駿高の強みは毎年受験の最前線に立っている駿台予備学校から絶えず最新の入試情報が提供されることです。この強みを最大限に活用し、お子さんの進路実現にお役立ていただければと思います。次回の進路講演会は来年1月31日(土)を予定しています。

美術デザイン科の修学旅行

学科長 岡田昭夫

美術デザイン科の修学旅行は、9月9日から12日の3泊4日で実施しました。1日目は貸切バスと新幹線で広島へ、印象派のコレクションで有名な『ひろしま美術館』を見学しました。企画で絵本『グリとグラ』の原画展をやっている、イラストを描くことが好きな生徒も多いため、参考になったかと思えます。

次に、平和記念公園で原爆ドームや様々な碑などの説明を聞き、平和記念資料館の展示を見学しました。残念ながら今年度は東館(入口)が改装中で本館のみでしたが、熱心に見学していました。宿舎では、被爆者の貴重なお話を伺い、被爆者手帳を見せていただくなど有意義に過ごしました。

2日目は大阪に移動し、ユニバーサルスタジオへ。話題のハリポッターは混んで

いて入れませんでした。その分他のところには比較的空いていたようで、5時間たっぷり夢の世界を堪能し、京都の宿舎へ。3日目は班別行動。電車やバスを使って、京都市内の寺社・町屋・太秦・大学とそれぞれ計画を基に楽しく過ごせました。最終日は三十三間堂や清水寺を見学した後、バスで一挙に甲府へ戻りました。普段は遅刻もありますが、旅行中は概ね団体行動もできており、貴重な体験を含め、有意義な修学旅行となったと思います。

学園からお願い

寄付金募集のご案内

今年度は、駿台甲府が創設されて三十五周年となります。今日に至るまでの間、保護者の皆様方をはじめ、地域の方など、多方面よりご支援をいただき、駿台の教育理念である「愛情教育」を日々実践し、教育環境の充実を図ってきたところであります。

9月には三十五周年事業として塩部校舎グラウンドの人工芝が完成し、活用しております。引き続き今井校舎グラウンド整備も進めて参ります。

今後とも、更なる教育・研究活動の向上や、学習環境の整備拡充に関わる資金需要に対処すべく、個人及び法人・団体の皆様にご支援賜りたく寄付金を募集いたします。

本寄付金は、税務上の寄付金控除の対象となり、ご協力いただけた場合、個人の方は所得税法にて、法人の方は法人税法による優遇措置を受けることができます。

何卒趣旨ご理解の上ご協力賜りますようお願い申し上げます。

○目的 駿台甲府小学校・中学校・高等学校の教育振興寄付金

○使途 駿台甲府小学校・中学校・高等学校の教育活動・学習環境の整備拡充に要する費用に充てさせていただきます。

※詳細につきましては、本校HPをご覧ください。

中学より

全国私学大会に参加して

2年D組担任 野倉英明

先日、全国私学教育研究会東京大会に参加してきました。平日であるにも関わらず全国の私学から千名以上の教員が出席するという極めて大規模な研究会で、海外における教育事情・私学を取り巻く近況・教育トレンドなどに関する報告を聞き、情報交換することによって現場での教育をより良いものにすることを目的に開催されます。最新のICT教育を打ち出している学校を見学する機会もあり、高性能な教材とその華やかさには圧倒されました。しかし、S・ジョブズ（アップルの共同創業者）でさえ自分の子供には通信機器の所持させなかったことをニューヨークタイムズが伝えているように、生徒にそれらを与える適切な時期についてはいまだに悩ましい問題です。

今回の研究主題は「グローバル化する社会に対応できる人材を育成する教育とは何か」という旨でしたが、共有した結論はアナログかつシンプルなものでした。「与えられた条件の中で、何とかする力を育てる」という、「強い網」の精神にも似た、本校になじみ深いコンセプトです。「グローバル化⇨欧米のスタンダードに合わせる」という側面だけにとらわれず、生徒一人ひとりのハードとしての力を鍛えることが大切だということ

駿高進学へ向けて

3学年主任 柿澤喜英

本校の第2チームの中で、中3の第2〜3学期の大きな目標は、何と言っても、根のある学力を身につけさせることです。そのため、県総体終了後、高校での学習に耐え得る基盤作りのために、今迄以上の学習姿勢の確立・安定に意識・生活をシフトさせます。学習量の増加を図り、それを習慣にすることですが、継続して実行するのはなかなか難しいことです。特に高校受験がない本校では、一人一人に、自律、楽をしたいという気持ちに克つ強い心が求められます。しかし、逆に高校受験がないからこそ、上っ面を追って結果だけを求める学習ではなく、結果を求める過程において、行間を読み取ったり、じっくり腰を据えて自分なりに試行錯誤して思考する、そして体裁の良い言葉のコピペでなく、自分の言葉で表現する力をつける余裕があります。量をこなす中で本質が見えてきます。そうすれば、基礎力の必要性にも、幾つもの分野にまたがる複合的な知識や情報の必要性にも気付くはずですし、勉強の楽しさも解るはずで、急がば回れ、学問に王道なしです。そんな願いから、夏休みには時期をずらしていくつかの学習の機会を仕掛けました。2学期以降には、具体的テーマとして、「武蔵から「文」へ」を、駿高生になる準備をする！を、生徒に宣言しました。また、駿中18期（現高2）生に、「後輩たちへ」駿中3年次の2学期以降を振り返って、高校入学までにすべきこと」のテーマで講演（ミニトークライブ？）も実施しました。

今後も、生徒の、高校進学、大学進学、更にはその先の自己実現を見据えて、視野の広い、根のある学力を育むための仕掛けを実施していきます。

新人戦を終えて

2学年主任 永山一宏

去る10月10日（金）11日（土）に、第51回甲府市新人体育大会が行われ、様々な競技で熱戦が繰り広げられました。

本校からも個人戦を含めて9競技14の新チームが試合に臨み、3年生の引退によって最上級生となった21期生を中心に新たな戦いに挑みました。その結果、男女ハンド部のアベック優勝&県大会出場権獲得などの目覚ましい活躍や、季節部ながら少数精鋭で奮闘し、各種リレーや個人種目で好成績を収めて見事に総合優勝を飾った水泳部の健闘などが光りましたが、惜しくも一回戦や予選リーグで敗北を喫して、県大会を前に涙を飲んだチームもありました。

試合には相手がいる訳ですから、たとえ自分たちが万全の準備をして臨んだとしても、健闘空しく残念な結果に終わることがあります。ときには運を味方につけることができず、地方で劣る相手に思わぬ黒星を喫することもあります。そんなときにその結果から何を学ぶ取ることができかが、新チームの行方大きく関わってきます。

勝利の美酒に酔い痴れることなく向上を目指す心。敗北の苦さの中で己の弱さを直視し、それを克服しようとする心。そういった前向きな精神が、来年4月には新入生を迎え、名実共に最上級生としてクラブを牽引していかねばならない21期生諸君に求められているのだと思います。

中学生として部活に携わることができるのも、あと八ヶ月ほどになりました。来年の夏の県総体を終えて引退を迎えたときに、やり残したことや悔いが残らぬよう、今回の新人戦の結果を明日の糧にして、たゆまぬ努力を続ける21期生であってほしいです。

課題研究基調講演

1学年主任 中込範彦

去る10月9日（木）、課題研究の基調講演を行いました。当日は、山梨放送開局60周年記念として8月に放送された「カミナリワイナリー」で監督をされた蛭原やすゆき氏を講師として、その制作において「どういう風山梨を取材したのか、どんなことを伝えたいと思ったのか」を中心にお話して頂きました。

蛭原監督は1982年生まれ。出身は宮崎です。宮崎出身の監督が山梨の作品を作るに当たって、まず山梨県民とはどういう人柄なのかを調べ、脚本を作る際の大事な作業にしていることや、映画作成の流れやスタッフの役割などを分かりやすく説明して頂きました。

普段自分の住んでいる県について、外からの客観的な目で見える機会の殆どない中学生にとってはとても良い機会となりました。長野県から通っている生徒にとっても自らの県を改めて考えてみる良い機会となったことと思います。「カミナリワイナリー」では各シーンに監督が伝えたい思いが込められていることも話して下さいました。そして最後に、今ネット上で検索すれば何でも分かるが、自分が本当に知りたいと思ったら、その場所に足を運び、自分で知って欲しいと締められました。

今回の講演で1年生諸君が今後のそれぞれの課題研究を進めるにあたり、新たな視点で振り返ってみる、またネットで情報を得るだけでなく自ら実踏を試み、自らの目で確認、感じ、知る事の大切さを培ってくれていることを期待しているところです。



日本の伝統と最新技術に出会う

六学年主任 奥村 貴子

高学年が学習している国語の教科書の中に『千年の釘にいどむ』という読み物があります。千年先までもたせる建物をつくる鍛冶職人の話です。まさに今回、修学旅行で訪れている法隆寺や薬師寺を舞台にした内容でした。

現代の鉄の釘の寿命はせいぜい五十年。今、立派に建っているビルやマンション、私たちの住んでいる家々を千年以上先までそのままの形で残すのは、きわめて難しいそうです。現代のようにコンピューターもブルドーザーもなかった時代に、古代の職人たちは千年たってもびくともしない建物を造り上げたのです。

古都がかもしだす独特の雰囲気は歴史好きの児童だけでなく、思わず引き込まれてしまうほどの魅力が奈良にはあったようです。戦国時代、戦火にも耐えた薬師寺東塔は、残念ながら補強工事中により見ることはできなかつたのですが、これもまた次に訪れた時の楽しみとしてとっておくことにしました。

奈良公園では、鹿せんべい欲しさに群がる鹿に大興奮の六年生。気が付けば鹿の大群に囲まれてしまった児童もおりました。その土地ならではの当地食材を使った食事を食べて大満足の様子でした。

愛知県では、リニア鉄道館、トヨタ博物館と交通に関する最新技術の施設を見学しました。奈良から愛知への移動は特急と新幹線を利用し、新幹線に初めて乗るという児童も、その快適さや静かさに驚いていました。また、金の鯨が目を引く名古屋城にも訪れました。この三日間は班での行動が

多く、自分達で計画をしてどの順路で回るのか、何をメインに見学をするのかを考えてきました。最後の見学場所である名古屋城では、うまく休憩をとりながら、写真もしっかりと撮りながらの行動ができたように、充実した見学となりました。

さて、最終日、山梨に向かうバスの中で子どもたちに何が楽しかったかと尋ねると意外にも「初日の宿舎」と答える子どもたちが多くいたことに驚きました。初日の宿舎は、興福寺五重塔の目の前にある古びた外観で、いかにも修学旅行生相手といった感じの旅館だったので、大部屋で畳に布団を敷いて寝たり、大浴場にみんなで入ったり、布団に入ってから密談といったことが楽しい要因だったようです。確かに自分が小学生の時も、覚えているのは旅館やバスでの出来事だったりしたなあと思い出しました。

現代を見れば、プライベートな時間や空間をより重視する生活習慣や傾向が強いように感じますが、旅館のように一緒にお風呂に入り、寝食を共にするという経験が、子どもたちにとっては逆に新鮮で記憶に残ったようです。また、仲間の新たな一面も知ることができ、より絆を深めることができました。この修学旅行で深まった絆、経験をこれからの糧にして、卒業までの残りの小学校生活に生かして欲しいと願います。



「みんつく」の力、宿泊体験学習を終えて

四学年主任 田中 愛子

九月二十五日、四年生が最も楽しみにしてきた初めての宿泊学習出発日。台風の影響で悪天候は確実という予報の中、誰もが野外活動は中止だろうと覚悟し、降雨の中、出発のバスに乗りました。最初の見学場所、小淵沢にある昆虫美術館で、多種多数の貴重な昆虫を夢中になって観察やスケッチをしていると、窓の外から明るい光が差し込み始め、雨は上がっていました。子どもたちの思いが奇跡を起こしたのでしょうか、その後、野外での昼食やアスレチック遊び、八ヶ岳少年自然の家でのオリエンテーリングなど、予定通り行うことができました。

この宿泊行事では、集団の力を鍛えることに重きを置き、四年生の合言葉『みんつく』の精神『みんんでつくる』が全ての活動の根底となるよう励ました結果、一人一人の頑張りが全体の成功や笑顔に繋がった場面を沢山見ることができました。1+1が2であれば面倒な集団活動をする意味はありませんが、1+1が3になったり、4になったり、集団力はその人数を上回る力で発揮されるからこそ大きな意味があります。キャンデルサービスで灯した友情の火、輪になって踊ったフォークダンス、野外炊事でお腹いっぱい食べた「みんつくカレー」など、この宿泊学習を通して仲間や自然から多くを学び、達成感を味わい、また+2をみんなで作って出す経験ができたことを幸せに思うと同時に、ご協力に感謝いたします。



集団力を高める宿泊学習

五学年主任 山下 潤

九月四日から五日の日程で五学年は東京方面に行きました。国立科学博物館を見学した後、浅草演芸ホールで落語や漫談を見ながらの昼食。その後、浅草寺を見学し、仲見世通りで買い物をしました。二日目は朝から午後三時までキッザニア東京で職業体験をしてきました。見学先について調べ、レポートにまとめる夏休みの課題もあり、一学期から子どもたちが楽しみにしている行事でもありました。浅草演芸ホールは小学生の団体がなかなか訪れない場所ですが、落語を聞きながら食事をするという昔ながらの娯楽を体験したのは貴重な経験になったと思います。キッザニア東京では様々な職業を体験し、働くことの大切さ、大変さを感じるものが出来ました。宿泊先のホテルでは、駿小卒業生がベルボーイとして出迎えてくれる嬉しいサブライズもあり、充実した二日間を過ごすことが出来ました。

さて、この充実した二日間を過ごすために「時間を意識する」「仲間のことを考える」という取り組みを一学期から行ってきました。集団行動では、自分の都合よりも仲間や全体を優先させることがとても大切です。学校生活の中で様々な場面を想定し普段から意識させてきたことで、時間的余裕を生み出し、その時間を子どもたちの見学や買物の時間に振り替えることができました。最後になりますが、保護者の皆様のご協力、本当にありがとうございます。

